

人権週間

12月4日(月)～12月10日(日)

昭和23年に国連総会で「世界人権宣言」が採択されたのを記念して、12月10日を「人権デー」と決めました。日本では、12月4日から1週間を人権週間として、全国的に啓発活動を展開しています。



倉敷亀山郵便局

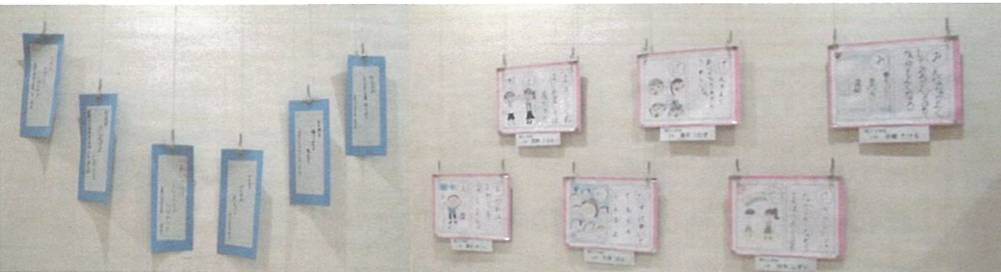
多津美中学校区内の8事業所で、学区内の小学生・中学生が描いた人権ポスターや人権カルタ、人権標語を展示しました。どの作品も、訪れた人々の心に響くようなメッセージが込められていました。ご協力くださった皆さん、素敵な作品をありがとうございました。



JA 晴れの国岡山 藤戸支店



倉敷羽島郵便局



JA 晴れの国岡山 帯江支店

くらしきすこやかプラザ (有城荘・倉敷児童館)



多津美公民館



多津美中学校区人権学習推進委員会

多津美中学校区 人権だより



令和6年3月 発行

第47号

事務局

多津美公民館 TEL 428-6541



多津美中学校区人権啓発キャラクター「ココロ」

今年度は多方面で様々なイベントが再開されています。多津美中学校区内においても、恒例となる地域の各行事が開催され、多くの参加者で賑わいました。多津美中学校区人権学習推進委員会の啓発キャラクター「ココロ」も皆さんと一緒に楽しい時を過ごしました。

帯江学区子ども会「なんでもフェスタ」



10月15日(日)、帯江小学校グラウンドと体育館で、帯江学区子ども会主催の「なんでもフェスタ」を開催しました。当日は参加者が500人を超え、みんなで楽しいひと時を過ごしました。



人権啓発キャラクターの「ココロ」も登場♪
元気な帯江っ子たちと握手を交わしました。

多津美中学校区 青少年を育てる会「親睦大会」



11月11日(土)、多津美中学校グラウンド、テニスコート、体育館及び校舎で、多津美中学校区青少年を育てる会主催の「親睦大会」を開催しました。学区内の児童、生徒、保護者合わせて300人が参加し、吹奏楽部によるミニコンサートやスポーツ、ゲームなどを楽しみました。



「ネット・スマホ時代の大人の責任と役割」

(株)コムパレット 代表取締役 きりのしまみ 桐野 志摩美 氏



インターネットで簡単に発信ができる現在、意図せず知らず知らずのうちに誰かを傷つけてしまうことがあります。子どもが加害者にも被害者にもなることがないようにするために、大人、特に保護者には何ができるか、どのように子どもに関わっていけばよいのか、最新の事例を基に、最先端の考え方を分かりやすくお話をしていただきました。日ごろから悩んでいる保護者も少なくなく、熱心にお話を聞いたり質問をしたりして、あっという間に時間が過ぎました。

参加者の感想

- 一方的にルールを押し付けるのではなく、子どもと話し合っ一緒に考えていくことが大切だと思いました。
- ルールを決めて守ることも大切だが、そのルールを定めた意味や、根本にある課題について子どもと話すことが大切だと感じました。
- 家庭によってルールが違うので、ずれが生じるのが悩ましいところではあります。
- スマホのルールに制限をかけすぎると、中・高校生で持たせた時に、その反動が大きいかもしれない。
- 答えがないということが一番不安なところです。
- スマホの所持・未所持によって学校生活にも影響を及ぼす可能性があるが、現実の世界で良好な人間関係を築けるように声掛けをしていきたいです。



「片づけで叶う、家族も私も心地いい暮らし」

「おうち日和」代表・整理収納アドバイザー おおもと まさこ 氏



参加者の感想

- 子どもの物やおもちゃがどんどん増えていく中で、なかなか片付けが難しい日々を送っていたので、とてもためになるお話が聞けました。家に帰ってから、早速使っていないものを捨てたりして、少し家がすっきりして気持ちもすっきりしました。
- 日頃から、片付けについては意識しているのですが、子どもの片付けは、つい親が手を出してしまい、子どもにとってやりやすい片付けを少し工夫したいなと思いました。これから成長していくうえで「片付いている空間」というものが、心地よいものだという感覚を身に付けていけたらと思います。
- 先生の言葉一言一言にうなずくことばかりでした。スライドショーで分かりやすく説明してくれて、本当にきれいな部屋だと気持ちいいし、いる物もすぐ取り出せていいなと思いました。毎日コツコツと、まずは、タンスの中からいる物といらぬ物に分けてすっきりさせたいと思いました。
- 片付けの基本やアクション数を減らすという考え方を知ることができてよかったです。きれいな部屋は、見ていだけで心が休まるし、子どもも自分で片付けをしてくれるとイライラもなくなり、みんなにとっていいですね。
- 家の中が片づくことで、自分も家族もより安定した生活をしていけるのだなあと思いました。片付けの仕組みを作り、子どももきちんと片付けられる家にしていきたいです。

ひだまりいろ文化祭



12月2日(土)、生活介護事業所「ひだまりいろ」で文化祭が開催されました。事業所の入り口には、手作りのモニュメントが飾られ、訪れる人々を出迎えてくれました。建物内には、施設の利用者の個性を生かした作品が、それぞれのテーマごとに飾られていました。職員の方々が、制作にあたっての工夫や個性を生かして作った展示品について、一つひとつ丁寧に説明してくださいました。

写真はほんの一部です。個性あふれる作品ばかりで、見ていてワクワクするものばかりでした。



「見えないから見えたもの」

ヒカリカナタ基金 理事長
社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会副会長
社会福祉法人 岡山ライトハウス理事長

たけうち まさひこ
竹内 昌彦 氏



参加者の感想

- もし点字ブロックの上に物が置いてあったら、どかさうと思いました。「自分には関係のないこと」で終わらせてスルーするのではなく「誰かのために」を意識したいです。自分の時間を犠牲にしても、他の人のためになることをするという言葉を心に留め、普段の生活に活かしていきたいです。
- 目が見えない生活を不幸だと思わず、それさえも誇りをもって生きている竹内さんを見て、少しびっくりしました。私も自分の環境に誇りをもって自分や家族のために生きられる人になれる人になりたいなと思いました。小さなことからでも、いろんな人と助け合って生きていけるよう行動できる人になりたいです。
- 先生のお話を聞かせていただき、目が見えないという事はとても辛く、悲しい事だけれども、その思いをバネに生きがいを見つけ、頑張られている姿にとっても感動しました。先生が言われていた人に優しく、優しい心を向けられる人になって下さいという言葉が印象強く、子どもにもそのような人になってほしいと思います。
- 実際に障がいがある方のお話を聞いて、解決策を考えたりその人たちがどう考えているのかを知ったりして、みんなに優しい社会をみんなで作っていけるようになりたいです。そのために、日頃から心に余裕をもって生活し、その余裕を周りの人を幸せにできる行動に使いたいと思いました。